

1 本年度の学校目標

学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」

- めざす学校像 「学ぶことが楽しい学校」「教育環境が整備され、活気ある学校」「安全・安心で保護者や地域と連携し、信頼される学校」
- めざす児童像 「よく学び、よく遊ぶ子」「ふるさとを愛する子」「コミュニケーション能力の高い子」「規則正しい生活習慣の身についた子」「思いやりのある子」「チャレンジする子」
- めざす教師像 「一人一人の児童の良さや可能性を伸ばす教師」「児童・保護者・地域に思いに寄り添える教師」「使命感や情熱をもって、自らの実践的指導力を向上させ、互いに切磋琢磨する教師」

2 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目・取組内容	達成状況	
学校全体	学校の教育方針や情報などを保護者や地域にわかりやすく伝えているか	A 《取組状況》 ・学校だよりを全戸配付したり、ホームページで児童の活動を頻繁に紹介したりすることで、教育活動の様子や学校の願いを地域に発信している。また、学級通信、保健だより、食育だよりなどで、子どもの様子をこまめに伝えている。 ・子どもの声で、草庵先生の教えや今月の生活目標を告知放送し、保護者と地域にも広く啓発している。 ・多様な活動ができるよう教室環境や学習環境を整えている。休み時間に体育館で遊ぶ姿をよく見かける。 ・「○○週間・○○チャレンジカード」等挑戦するきっかけをつくったことでチャレンジする喜びを経験する児童が増えた。 ・「宿南っ子がんばりタイム」や休み時間や始業前・放課後の個別指導を丁寧に行っており、基礎基本の定着・学習習慣づくりに取り組むことができた。	
	めざす学校：教育環境整備、活気、安全・安心、保護者・地域との連携	A	
	めざす児童：自立、チャレンジ、共生、健康	B	
	めざす教師：信頼感＝人間性・専門性・実践的指導力、使命感・情熱	A	
	児童の人権を尊重するとともに、いじめの防止・体罰防止に努めたか	A	
	新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症対策は適切であったか。	A	
勤務の適性化に全職員で取り組み、子どもと向き合う時間を確保しているか	A		
授業の様子	児童は、自ら学び自ら考える力は育っているか	B 《取組状況》 ・児童の提出物や宿題から、個々の課題を掴み、個別指導を丁寧に行った。また、地域ボランティアによる「がんばりタイム」を活用し、基礎・基本の確実な定着を図ることができた。 ・少人数の良さを生かし、様々な体験活動を取り入れたり試行錯誤する時間を確保したりすることで、基礎基本の定着を図ることができた。 ・機会を捉えて、自分の言葉で発表したりスピーチをしたりすることを大切にしたり取組を行った。 ・全校で、算数科を中心としたガイド学習を取り入れた。その中で、児童が主体的に授業に取り組む方法を探った。 ・先達校視察や講師招聘をし、指導力の向上を図った。 ・アカデミアJr、英語の歌等の活動を継続して取り入れることで、自然に英語に慣れ親しみ、英語力が確実に身につけている。	
	教師は、指導方法・指導内容の工夫・改善に努めているか	A	
	教師は、基礎基本の定着と個に応じた学習指導を行っているか	A 《改善の方策》 ・子ども同士での学び合いが深まるよう、授業形態の工夫や話し合い活動の活用を図る。 ・デジタル教科書やデジタル教材の有効な活用方法を探索し、指導内容・指導方法の改善に努める。 ・アカデミアJrの取組を終わらせる方向で検討中。	
社会性・人間性の育成	児童は、集団生活に必要なきまりや約束を守っているか	B 《取組状況》 ・草庵先生の教えを月目標とし、生活を振り返るとともに、地区の告知放送でも呼びかけ保護者や地域の方にも取組を伝えるようにした。 ・自治協議会の教育やPTA活動もいろいろな工夫をされながら取り組まれ、児童も積極的に参加する様子が見られた。 ・生活アンケートの検証子どもを語る会の実施、家庭との連携などにより児童理解に努めた。 ・そうあくんの日を取組では、「そうあくんカード」を活用し、テレビやゲームの時間を手伝いや読書・自主学習に使うよう意識づけを図った。	
	児童は、「そうあくんの日」に計画的・意欲的に取り組むことができていたか	A	
	児童は、地域行事へ積極的に参加し、地域の人々と交流を深めていたか	B 《改善の方策》 ・子どもの実態把握を継続的・計画的に実施し、児童理解を深め、一人一人の子どもに寄り添った指導に努めていく。 ・できるだけ児童の思いや考えを聞き出し、気持ちに寄り添った生活指導を今後も心がけていく必要がある。	
	教師は、児童の規範となる言動を行い、児童に寄り添った指導をしているか	A	
教育活動	道徳・人権・福祉・特別支援教育 ・個に応じた教育を推進できたか ・体験活動を通じた道徳教育を推進したか ・人権感覚の育成、規範意識の高揚を図ることができたか ・福祉体験活動を計画的に十分に行うことができたか ・教育活動全般を通して生徒の心を育むことができたか	A 《取組状況》 ・タブレットの活用が進み、児童は操作に慣れてきている。 ・図書室を利用しやすい配置にしている。また、図書の管理もデータ化し貸出・返却・購入・廃棄等、効率よく処理できおり、図書館利用も増えている。 ・「たじま荘」訪問をしたり、地域の高齢者に年賀状を送ったりするなど、工夫して福祉教育に取り組むことができた。 ・スクールカウンセラーによる研修、通級指導等、個別の指導や支援に関する専門的な研修を行った。 ・児童会による活動で、友だちの良いところを紙に書いて掲示するようにしたことろ、学年を問わず、それぞれのよさに気がつく児童が増えた。よりよい人間関係を築く中で、新聞づくりの学習をし、新聞を使って言葉探しの学習をしたりした。朝のスピーチに新聞を使うことも増えた。毎日届く新聞を手取る児童も増え、社会情勢に関心をもつ児童も増えた。 ・「鉄棒週間」や「ジョギングタイム」など、日頃から運動に親しみよう働きかけを行ったため、運動に取り組む児童が増えた。 ・陸上・一輪車において講師招聘を行い、より専門的な教育活動を試みた。 ・健康に関する指導（歯、姿勢・睡眠・朝食・性教育など）を計画的に行うとともに、通信を通して保護者に積極的に発信し、保護者の理解を得て保健指導ができた。 ・通常の避難訓練に加え、栄養教諭に協力を得て、防災食の学習をおこなった。	
	健康教育（性教育・食育） ・系統的で児童の心身の健康に配慮ある指導ができたか ・教育全般を通して指導を行うことができたか	A	
	防災・環境教育 ・地域の特性に応じ、連携のある取組を推進したか ・計画的・継続的に児童の危機回避能力の向上を図る取組ができたか ・身近な環境に関心をもたせ課題意識を育てることができたか	A	
	情報・図書館教育 ・児童の情報活用能力の育成とSNSの安全な利用について指導ができたか ・教育活動を全てICTの効果的な活用を進めることができたか ・読書の習慣化、家庭読書の定着を進めることができたか	B	
	ふるさと・キャリア教育 ・計画的・系統的に地域素材・人材の活用ができたか ・キャリア教育を推進することができたか	A	
	小中一貫教育 ・小中一貫教育を見据えた上で、小中連携を推進することができたか	A	
	保護者・地域との連携	オープンスクールやPTA活動などにおいて、保護者や地域の方と連携を深めているか	A 《取組状況》 ・学校行事への参加を、地域の方へ積極的に呼びかけた。マラソン大会や祭祭りは浴道で多くの方に声援をいただいた。 ・登壇の様子や喜び、長期休業中の学習のボランティア等、地域の方の積極的に関わっていただきありがたかった。 《改善の方策》 ・学校だけでなく、地域でも家庭でも児童が大きな声であいさつできるよう三者が連携した指導を継続する。 ・コミュニティ・スクールを推進するため、地域と学校が一体となって子ども達の指導に関わる仕組みづくりをしていく。
		学校は、地域の人材、施設、歴史、自然などを教育活動に活用しているか	A

3 総合的な学校関係者評価

- ・児童は、あいさつがよくできている。今後も、学校・保護者・地域のすべてが、あいさつを意識して、児童と接していくことが大切となる。
- ・今後、学校において、ICTの活用は必要不可欠になる。授業において、デジタル教材を有効に使ってほしい。また、学校からの連絡などにおいても、タブレットを活用するなど、必要に応じて積極的にICTを取り入れてほしい。同時に、情報機器使用時における危機管理意識を、誰もが強くもたなくてはならない。
- ・学校行事について、地域への連絡を告知放送でもらっているのはありがたい。また、児童が毎月する「そうあくん」の教えに関する告知放送も、続けてほしい。

4 評価項目ごとの学校関係者評価

自己評価の適切さ
【学校全体について】 ・学校だよりを全戸配布してもらっているのは、ありがたい。これからも、ぜひ続けてほしい。 ・職員間で児童の情報共有しながら、いじめを積極的に認知し、大きな問題が起きないよう対応している学校の取組はよい。児童や保護者のアンケートからでも、学校が安心して学べる場になっていることが分かる。今後も、児童をしっかりと見ていただきたい。 ・児童の様子を見ていると、生き生きとすくすくと成長していることが分かり、大変嬉しい。 ・小学校で基礎的なことを確実にしつけられているので、中学校でも落ち着いて生活できていると思う。 ・環境整備について、学校の自己評価がやや低く少し心配したが、話を聞く中で、学校は、児童の良さと学習しやすい環境づくりのために、精一杯の努力をしていることが分かった。来年度予算につき、照明等も確実に直してもらえようなので、安心した。 ○達成状況の自己評価は適切である。
【授業の様子】 ・授業参観では、児童は、落ち着いて自分の意見を言うことができていることを感じた。 ・少人数の良さを活かし丁寧に勉強を教えていただいている。分らないところが出てきた児童に対して、個別に指導していただいているのも、ありがたい。 ・全体的に姿勢があまりよくない。自ら意識できるように指導してもらいたい。 ・宿南という地域の中で英語に触れる機会は少ない。アカデミアJrをなくすのは残念だが、総合的に考えると仕方ない。ALT等をうまく活用し、英語力の育成を図ってほしい。 ○達成状況の自己評価は適切である。
【社会性・人間性の育成】 ・普段の生活の中で、こちらが児童に話しかけたとき、それに対してきちんと反応がきている。会話につながるが生まれ、話が続くようになってきた。 ・地域行事には、児童はよく参加している。保護者が参加すると児童も参加する。 ・睡眠時間は児童にとってとても大切なものである。学校では、下校集会の中で高学年の児童が呼びかけている様子を時々見る。保護者も意識していきたい。 ○達成状況の自己評価は適切である。
【教育活動】 ・子どもの活字離れが問題といっている今、NIEの取り組みは、大変良いと思う。朝、子どもが、真っ先に新聞を読む習慣がついてきた。今、学校でしているNIE教育は、児童が社会に出てから役に立つはずである。 ・児童会が、友だちの良いところを見つけていく活動を積極的に行っている。互いに認め合えることは大変よいことだと感じている。宿南の子ども達の成長の一因になっていると感じる。 ・里山体験など、地域人材を活用した体験活動を、児童は大変楽しみにしている。これらの活動を通して、他校の保護者から羨ましがられることも多々ある。今後も続けてほしい。 ・陸上や一輪車など専門的な技能をもたれている方を外部講師として招き指導してもらったことはよい。 ・児童が読書できるように、図書室の本を充実させてほしい。保護者からお勧めの本を聞くこともよい。また、保護者も子どもと一緒に本を読むことも効果的だと考える。 ○達成状況の自己評価は適切である。
【保護者・地域との連携】 ・マラソン大会等の応援等でも、今は、両面で見に来られているところが多い。すべての保護者がPTA活動に積極的に関わっており、とてもよいと感じる。 ・朝、見守りの方が確実にいなくなるので、児童は安全に登校できている。今年度から取り組んでいる地域の防犯児童を広める等、下校時における児童の安全にも取り組むことが大切になる。 ○達成状況の自己評価は適切である。